

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「高めよう自分力、開こう未来への扉」をスローガンに、授業や行事・部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動を通して、一人ひとりの能力を最大限に高め、次に掲げるめざす学校像の実現に最善を尽くす。

1. 勉強と部活・行事の両方とも本気で取り組む学校（多様性とバランス）
2. 希望する進路を実現する学校（自主性と挑戦する気概）
3. 地域から愛され信頼される学校－開かれた学校（社会につながる力）

2 中期的目標

1. 授業の充実
 - ① 授業アンケート軸にして良い授業の追求に組織的に取り組む
 - －個人・教科・学年ごと改善テーマの設定、アンケート結果に基づくフィードバック、振り返りシートの作成のPDCAサイクルを徹底する
 - ② 授業改革・改善に積極的に取り組む
 - －「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果をだす授業」に取り組む
 - －ICTの活用、3年間の学習スタンダードの策定、教育センターとの連携、外部機関・教育産業の活用など
 - ③ 着想・展開・発表する力を育む
 - －アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する
 - －発表の舞台を作る（学級読書会、暗唱大会、情報プレゼン発表、プレゼン大会、外部コンテストへの積極参加など）
 - ④ 誰もが認める良い教師の育成
 - －学び合いによる暗黙知の共有とマニュアル化（公開研究授業、成果発表、他校の見学など）
 - ⑤ 多くの教科を学び、教養の基礎となる知識を身に付ける
 - －センター試験受験者の増加（200名）
2. 自主自律の精神の涵養
 - ① 勉強と部活・行事の両立
 - －学習・生活習慣の確立
 - ② 規律とけじめの厳守
 - －遅刻低減、下校時間厳守、挨拶励行
 - ③ 生徒会活動の自主運営
 - －学校祭の自主企画・運営
 - ④ 協働と競争の精神の涵養
 - －チームワークと挑戦する気概
3. 進路の実現
 - ① 授業・週末課題・講習の三点セットの充実
 - ② 自学力
 - －もっと学びたい生徒のための環境作り
 - ③ チーム国公立の組織化
 - －学年進路指導部との連携体制
 - －国公立進学志望者の進路実現
 - ④ カリキュラム改訂
 - －国公立受験対応カリキュラム改訂のための土壌作り
 - ⑤ 適切な進路ガイダンス
 - －センター受験者（200名）、国公立現役合格者（30名）、関関同立（150名）、産近甲龍（250名）
4. めざす学校の実現を支援する機能的な組織運営
 - ① 学年団と分掌組織の連携
 - ② 首席をヘッドにした会議体と組織運営
 - －分掌間の連携の推進、組織力（チームワーク）
 - ③ 積極的なOJTを通し若手・ミドルの人材育成
 - ④ 将来構想委員会を機能させ、議論の活性化を図る
5. 地域連携
 - ① PTA、学校協議会と連携した改革の推進
 - ② 学校説明会、HPなどを活用した積極的な情報発信
 - ③ 地域活動への積極的な参加
 - －図書館活動、早朝あいさつ運動、地域清掃、地区文化祭などへの参加

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者の回収率は昨年と同じ 88%であり、各問の肯定率もほぼ同じであった。「本校に進学させてよかった」が 91%と、高い評価を得た。生徒は 30 問中 20 問において 3 年連続で肯定率が上昇した。「学校へ行くのが楽しい」は 87%、「学校行事は楽しい」は 90%と高い。</p> <p>【学習指導等】 「授業に積極的に取り組んでいる（生徒）」80→81%、「授業はわかりやすい（生徒）」64→68%、「教え方に工夫している先生が多い（生徒）」52→55%に増加した。「学習指導に満足している（保護者）」は 79→78%とほぼ同じであった。授業アンケート結果も踏まえ、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。</p> <p>【生徒指導等】 「安心して学校生活がおくれている（生徒）」85→88%、「悩みや相談に親身に応じてくれる先生が多い（生徒）」70→74%と増加した。一方、「授業規律を身につけさせている（教職員）」90→83%に減少した。「厳しく寄り添う」指導について、教職員間で再確認し、指導に当たっていききたい。</p> <p>【学校運営】 「教職員間で情報交換が十分に行われている（教職員）」78→83%に増加した。各種会議は時間的制約も大きいので、職員室や準備室が、日常的に気軽に授業や生徒指導等について相談できる場となるよう一層、努めていきたい。</p>	<p>第 1 回（6/17） ○授業見学 ・どのクラスも熱心に集中して授業を受けていたので感心した。先生が一方向的に授業を進めるのではなく、生徒に考えさせる時間があった方がよい。</p> <p>○H28 学校経営計画について ・文武両道の学校で地元でも評判が良い。また、家庭で学校のことについて話をしている生徒が多い（H27 自己診断で肯定率 71%）ことはいい傾向である。昨年よりもさらに良い方向にすすむようPDCAサイクルをしっかりと回していただきたい。</p> <p>第 2 回（9/17） ○文化祭見学 ・PTA が学年ごとに食品バザーに取り組んでいた。PTA 活動が熱心なので驚いた。 ・野外ステージではダンス等、生徒の活発な取り組みが見られたが、以前に比べて展示が少なくなった。</p> <p>○H28 学校経営計画、進捗状況について ・全体として着実に成果が出てきている。最終、どのような進路結果となるのか期待している。3 年生にはぜひ頑張ってもらいたい。</p> <p>第 3 回（1/31） ○H28 学校経営計画、自己評価について ・全体としての取り組みは良好である。最終の進路結果に期待したい。「授業がわかりやすい」をもっと伸ばしてほしい。生徒指導に関する項目は概ね高い数値であるが、学業とのつながりが深いのでわずかな変化も見逃さないようにしてもらいたい。高大接続改革、学習指導要領改訂へ準備を進めてもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 授業の充実と進路の実現	(1) 良い授業の追求 (2) 進学実績の向上	○進路希望の実現につなげる組織的な授業改善 5月 個人・教科による授業改善テーマ設定 7月 第1回授業アンケートの実施 8月 個人・教科にフィードバック 9月 個人・教科から振り返りシートの提出 10月 公開研究授業 12月 第2回授業アンケートの実施 1月 個人・教科フィードバック 2月 個人・教科から振り返りシートの提出 3月 成果発表(国・数・英・社・理他) ・ALを活用した授業(深い学びとともっと学びたい生徒を増やす取組) ・教員の外部研修(塾、予備校、他校等) ・発表の舞台、機会を作る(英語暗唱・プレゼン、情報プレゼン、学級読書など) ・習熟度別、進路別学習の展開 ・ICTの活用推進チームの編成 ・講習の充実 ・授業+週末課題+講習の一体化(習熟度別、進路別) ・チーム国公立の組織化(学年進路との連携強化) ・カリキュラム改訂へのアプローチ	・ALの導入(個人、教科) ・生徒自己診断「わかりやすい授業」64→70% ・授業アンケート質問8、座学(3<)実技(3.1<) ・ICT活用による「工夫をしている」52→60% ・「発表する機会」61→70% ・保護者自己診断「1時間以上の家庭学習」56→65% ・外部研修実績 ・習熟度別、進路別実践チェック(1年英語展開、2年数学授業、講習、週末課題など) ・チーム国公立の活動計画作成 ・センター受験者(77→100名) 関関同立現役合格(74→100名) 産近甲龍現役合格(173→200名) 国公立現役合格(9→15名)	・ALは各教科で1, 2名がグループでディスカッションやワークを取り入れ先駆的に実施。(○) ・「わかりやすい授業」4%増の68%に止まる。「先生に質問しやすい」も70→74%に。(△) ・授業アンケート質問8(興味・関心がもてた)座学(2.9<)、実技(3.1<)、学校平均は3.03→3.09に(△) ・「教え方に工夫をしている」3%増の55%に止まる。 ICT機器の全学年への整備が課題。(△) ・「発表する機会」は全体では58%。英語暗唱や情報プレゼンに取り組む1年は78%に達した。(△) ・「1時間以上の家庭学習」は56%と変わらず。1年が49%と低いのが課題。(△) ・予備校の教員向け夏季セミナーに若手教員が参加。(○) ・1年英語表現Iを習熟度別に2展開。暗唱大会にも取り組み、成果を上げる。(○) ・2年数学IIを数学Bの選択の有無で分けて実施。生徒の学習意欲を高め、進路に結びついた指導ができた。(○) ・3年の講習は昨年より多い18講座(早朝5、放課後11、土曜2)を開講。夏季講習ではさらに5講座を追加。のべ約800名がエントリー。(○) ・1, 2年で年間20回週末課題(国数英から2教科)に取り組む。提出率は90%以上を維持。(○) ・チーム国公立を立ち上げ、5回集会を開催。毎回約30名が参加。タイムリーな情報提供とモチベーションを高める効果があった。(○) ・センター受験者 117名(◎) ・関関同立現役合格 107名(◎) ・産近甲龍現役合格 169名(△) ・国公立現役合格 9名(△)
2 自主自律の精神	(1) 自主自律とチームワーク	○学習・生活習慣の確立 ・規律とけじめ(遅刻、下校、挨拶) ○生徒会活動の自主運営(学校祭他行事) ○海外修学旅行(台湾)・国際交流の実施	・遅刻5%減、下校時間厳守 ・生徒、保護者、教員自己診断、他アンケート	・遅刻総数2131で昨年とほぼ同じに止まる(△) ・冬時間に変わる11月初め、下校時間順守指導を展開、効果があった。(○) ・「学校行事は楽しい(生徒)」89%→90%、「生徒会活動、ホームルーム活動は活発である(生徒)」68→72%、「学校行事によく取り組んでいる(保護者)」89→89%(○) ・初の台湾修学旅行を実施、生徒満足度85%に(◎) ・アメリカのシアトルの交流校より、7月と12月の2度来校。生徒宅にホームステイ。H29.3には逆に10名が訪米、相互交流を図る。(◎)
3 機能的な組織運営と地域連携	(1) 機能的な組織運営 (2) 学校情報の積極的発信	○首席をヘッドにした会議体と分掌組織運営 ・首席による分掌統括、連携の強化 ・進路と生指(生徒会)、各分掌とHP管理チームの連携強化 ○将来構想委を機能させ、議論の活性化を図る ・学校祭の在り方を検討 ・教員・生徒会・保護者の意見交流の促進 ○人材育成 ・授業改善に関連したOJT(公開研究授業、成果発表、他校見学など) ・情報発信に関連したOJT(HP、学校説明会、中学校訪問など) ・将来構想委への若手教員の参画 ○PTA、学校協議会の改革のモニタリング機能としての活用 ・課題の共有化を図る ○地域活動への積極的参加 ・早朝あいさつ運動、地域清掃、地区まつり、文化祭、防犯パトロールなどの地域活性化・貢献	・HPの内容充実とアクセス数の増加 ・教員自己診断「PDCA」85→90% 「情報交換」78→85% ・各OJTへの取組み人数 ・学校協議会、PTA座談会の議題と討論内容等	・HPアクセス数は12月末で約84000回、昨年より18000回増。「ホームページをみたことがある(保護者)」79→81%(◎) ・「PDCA」75%に減。しかし、将来構想委員会がまとめた生徒・保護者アンケートをもとに、学校祭の日程を再検討。準備期間の確保と日程の圧縮を図った。(△) ・「情報交換」5%増の83%に止まる。(△) ・11月を公開研究授業月間と位置づけ、2名の初任者の研究授業を実施。各教科で授業を公開(24講座)、若手とベテラン教員の相互交流を図った。(○) ・2月に成果発表会を実施。(5名)(○) ・HP管理者に若手教員5名が参画。ノウハウを伝授。(○) ・学校説明会、中学校訪問などの広報活動に若手教員12名全員が参加。舞台での全体説明にも積極的に取り組んだ。(◎) ・学校協議会、PTA座談会では主に進路をテーマに討議。理解が深まった。(○) ・堺市東区内の唯一の公立高として、地域の期待に応えられるよう今後も連携を強化していきたい。